

「今、被災地に一番必要なのは、自分たちは見捨てられていないという実感だ」。アジ



菅波代表

ア医師連絡協議会(AMDA)、本部・岡山市)代表の菅波茂さん(58)は訴える。【野村房代】

菅波・AMDA代表

AMDAは設立から21年、世界28カ国に支部を設置するまで活動拠点を広げてきた。スマートラ沖大

ている。その運動を根っこ部分で支えているのは、「困った時はお互い様」という相互扶助の精神だ。今

「メッセージ伴う支援が重要」

地震では、その国際的なネットワークを生かし、日本を含めた10カ国からスタッフやボランティアが被災地に入って医療支援を展開し

回、AMDAに寄せられた募金の3分の1は、阪神大震災で被害にあった兵庫県から送られたものだとい

け。国際社会において説明

のない親切は危険以外の何ものでもない」と指摘する。では、どうやってメッセージを伝えるか。被災地や被災者を直接知らなくても、被災国に住む友人・知人も、企業など自分が持っているネットワークを最大限に使って励ましやお悔やみのメッセージを送り、関心を表すこと。インターネットなどを活用して情報収集の一環だ。

し、金銭、物資面での援助を行うこと。「友人、隣人」として、「困った時はお互い様」という姿勢を示すことが大切だ」と話す。AMDAは、地震で心に傷を負った子どもたちの心のケアに役立てようと、被災地に絵本を贈る運動にも取り組んでいる。これもメッセージを込めた被災地支